

「火の用心だより」第116号(令和6年11月号)

発行：札幌市消防局予防部予防課

充電式電池からの火災に注意！

近年、電気器具類を原因とする火災が全国的に増加しており、充電式電池からの出火件数の増加が顕著となっています。札幌市でも、充電式電池からの出火件数は、年々増加傾向で、昨年は15件、今年は10月末までの間で14件発生しています。

また、先月も4件発生しており、取り扱い・管理・廃棄の仕方に注意が必要です。

身近にあるリチウムイオン蓄電池

充電式電池の多くは、リチウムイオン蓄電池と呼ばれ、正極（+）と負極（-）の間をリチウムイオンが行き来することで、繰り返し充電・放電ができる電池です。

リチウムイオン蓄電池は、乾電池に比べて「小型・軽量・大容量」といった特徴があり近年、皆さんの身の周りの製品にも多く使用されています。例えば、スマートフォンやノートパソコンのバッテリーや、充電式コードレス掃除機、電動工具バッテリーにリチウムイオン蓄電池が搭載されています。

<リチウムイオン蓄電池を使用している製品の一例>



スマートフォン



ノートPC



コードレス掃除機



電動工具



非常用ポータブル電源

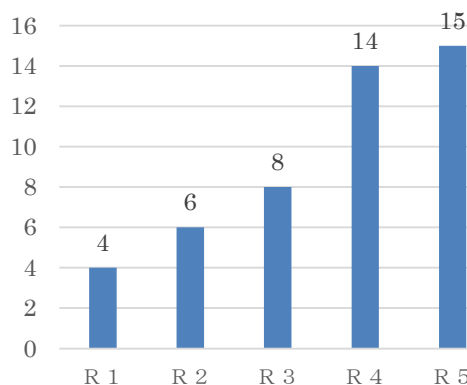


携帯ゲーム機

出火件数について

リチウムイオン蓄電池に起因する火災は、市内でも年々増加しており、今年もすでに14件発生しています。これは、利便性の高さやインターネット通販サイトの普及により、個人が手軽に購入できるようになったことも要因のひとつと考えられています。出火原因は、機器の不具合や不適切な使用により出火するケースが多いですが、このほかにも、廃棄方法を誤り、ごみ収集車のプレス機により押し潰されて、出火するケースがありますので、取扱方法や廃棄方法について注意が必要です。

札幌市の出火件数（※）



※ リチウムポリマー蓄電池・ごみ収集車からの出火件数を含む

出火事例1 (スマートフォン)



自分でバッテリーの交換作業中、誤ってバッテリーを傷つけ、ショートさせ出火したものの

出火事例2 (ノートパソコン)



リコール製品を使用し続け、バッテリーがショートし、出火したものの

火災予防のポイント

Check!!

- むやみに家電製品を分解・修理・改造しない。
- ホームページでリコール情報を確認する。(消費者庁 <https://www.recall.caa.go.jp>)
- 湿気の多い場所や、水のかかる場所では使用しない。
- 定期的に、機器に深いキズや変形、焦げ跡などの異常がないか確認し、万が一、異常を発見した場合は使用せずに、不燃性の缶等に入れ、販売店等へ相談を。
- 耐用年数を超過した製品は使用しない。
- 充電器やバッテリーはメーカー指定の純正品を使用する。

2次元コード



正しく廃棄しましょう

リチウムイオン蓄電池が不適切に廃棄されたことにより、廃棄物処理施設等（ごみ収集車・清掃工場等）から出火するケースが相次いでいます。

札幌市では、リチウムイオン蓄電池は“排出禁止物”として収集しておりません。

廃棄する場合は、販売店及び協力店の回収箱へ出してください。



荷箱内でリチウムイオン蓄電池が押し潰されて出火



荷箱から発見された焼けただれた蓄電池

詳しくは、札幌市環境局のホームページをご確認ください。

https://www.city.sapporo.jp/seiso/gomi/plastic_separate.html

2次元コード



市民が主役の火災予防

- ① 火災予防行事・活動に参加しましょう
- ② 火災予防の知識・行動要領を身につけましょう
- ③ 消火器などの防災機器を備えましょう
- ④ 防災品を使用しましょう
- ⑤ 放火されない環境をつくりましょう
- ⑥ 火災から高齢の方などを守りましょう

発行：札幌市消防局予防部予防課

〒064-8586 札幌市中央区南4条西10丁目

☎011-215-2040

SAPPORO



さっぽろ市
02-N03-24-388
R6-2-303